

Systemwalker Runbook Automation 導入作業 QA集

第1.0版

富士通株式会社

まえがき

本資料は、Systemwalker Runbook Automationの導入作業に対しての問合せ事例をまとめたものです。導入作業時の対処の参考となることを目的としています。

お願い

- 本書を無断で他に流用および転載しないようお願いいたします。

改版履歴 (外部公開し改版した履歴)

版	発行日	修正内容
1.0	2018. 11. 05	初版

目次

第1章 インストール	3
1.1 管理サーバ	4
1.1.1 Systemwalker Runbook Automationをインストール/セットアップした際に、自動で作成されるユーザーはありますか。	4
1.2 業務サーバ	5
1.2.1 Systemwalker Runbook Automation V15.1.3 の業務サーバをインストールするにあたって、Systemwalker Software Configuration Manager V15はインストールの必須要件ですか。	5
1.2.2 Systemwalker Runbook Automationの業務サーバをOSから再インストールします。管理サーバで実施すべき構成情報への業務サーバ情報の再登録手順を教えてください。	5
1.3 バージョン組合せ	6
1.3.1 Systemwalker Runbook Automation V15.1.3の管理サーバとV15.1.0の業務サーバ、Systemwalker Runbook Automation V15.1.0の管理サーバとV15.1.3の業務サーバの組み合わせは、サポートされますか。	6
1.3.2 開発コンピュータのSystemwalker Runbook Automation StudioのバージョンがV15.2.0で開発した自動運用プロセスが、管理サーバのSystemwalker Runbook Automation V15.1.0で正常に動作するか教えてください。	7
1.4 チューニング	8
1.4.1 RHEL、Solarisに導入した場合に、カーネルパラメータの変更点及び注意点などがあれば教えてください。	8
第2章 セットアップ	9
2.1 管理サーバ	9
2.1.1 Systemwalker Runbook Automationの管理サーバにてActiveDirectoryサーバとのActiveDirectory認証、LDAP認証が正しく行えているかどうかの確認方法を教えてください。	9
2.2 業務サーバ	10
2.2.1 SNMPを利用して構成情報を収集する場合、業務サーバでのSNMPエージェントのアクセス許可設定として、管理サーバ以外のIPアドレスは設定不要でしょうか。localhost/127.0.0.1は不要でしょうか。	10
第3章 ITリソース収集	11
3.1 設定変更	12
3.1.1 ITリソース情報収集定義ファイルの記載でサブネットマスクを"255.255.255.255"とした場合、最小範囲となる「mdbad.inventory.network.subnetmask」の設定を教えてください。	12
3.1.2 ITリソース情報収集定義ファイルと構成情報収集スケジュール定義ファイルの設定を変更した場合、管理サーバを再起動せずに変更を有効にする方法がありますか。	12

3.2	動作確認	13
3.2.1	スケジュールで定期的に行われている、ITリソース情報収集処理の動作状況を確認する方法について教えてください。	13
3.2.2	Webコンソール上で確認出来る構成情報一覧について、SNMP設定のみで収集されているのではなく、Systemwalker Runbook Automation エージェントにより構成情報が収集されていることは、どの項目をみれば確認できますか。	16
3.2.3	Systemwalker Runbook Automation 管理サーバ更改にあたって、更改後にノード検出(ICMP/SNMP)と構成情報の収集(構成情報プログラムでの収集)が正しく行っていることの確認方法を教えてください。	16
3.2.4	ITリソース情報収集プログラム(FJSVcmdbi)を導入したサーバの移行後に、ITリソース情報収集プログラムの正常性を確認するためのコマンド、手順等があれば教えてください。	17
3.3	その他	18
3.3.1	ITリソース情報収集が実施されている最中にITリソース情報収集定義ファイル「 <code>mdr.invpropaties</code> 」や構成情報収集スケジュール定義ファイル「 <code>schedule.conf</code> 」の設定変更などのため、サービスの停止を実施してしまった場合の影響を教えてください。	18
3.3.2	ITリソース情報でノードを検出する場合に、管理サーバから業務サーバに必要な通信の要件を教えてください。	18
3.3.3	業務サーバで利用するITリソース情報収集プログラムは、管理サーバと異なるバージョン・レベルのFJSVcmdbi.exeを利用することは可能ですか。	19
第4章	ホスト名/IPアドレス変更、LDAP変更	20
4.1	管理サーバ	20
4.1.1	管理サーバのIPアドレスを変更する際、業務サーバ側で実施すべき作業(OS再起動等)はありますか。	20
4.1.2	現在のLDAPサーバから、別のLDAPサーバへ変更する方法を教えてください。	21
4.1.3	管理サーバが参照しているActive Directoryサーバのホスト名とIPアドレスを変更します。対処方法を教えてください。	22
4.1.4	サーバ更改のためSystemwalker Runbook Automation V15.1.0 管理サーバを、別サーバのSystemwalker Runbook Automation V15.1.3へ移行します。条件ごと(ホスト名/IPアドレス、LDAP認証用のActiveDirectoryサーバの変更有無)による、移行方法を教えてください。	23
4.2	業務サーバ	27
4.2.1	Systemwalker Runbook Automationの業務サーバを導入しているWindowsサーバにおいて、Administratorアカウントの名称変更または、無効化を実施した場合、業務サーバへの動作影響はありますか。	27
第5章	ライセンス	29
5.1	ライセンス	29
5.1.1	Systemwalker Runbook Automationのエージェントをインストールしていないサーバに対して、マネージャからコマンド発行を行うことを想定しているが、ライセンスのカウンタはどうなりますか。	29
5.1.2	製品に登録し、一定期間経過後に更新が必要となる「ライセンス」に相当するものがあるのでしょうか。	30

第1章 インストール

管理サーバ

- [Systemwalker Runbook Automation をインストール/セットアップした際に、自動で作成されるユーザーはありますか。](#)

業務サーバ

- [Systemwalker Runbook Automation V15.1.3 の業務サーバをインストールするにあたって、Systemwalker Software Configuration Manager V15 はインストールの必須要件ですか。](#)
- [Systemwalker Runbook Automation の業務サーバを OS から再インストールします。管理サーバで実施すべき構成情報への業務サーバ情報の再登録手順を教えてください。](#)

バージョン組合せ

- [Systemwalker Runbook Automation V15.1.3 の管理サーバと V15.1.0 の業務サーバ、Systemwalker Runbook Automation V15.1.0 の管理サーバと V15.1.3 の業務サーバの組み合わせは、サポートされますか。](#)
- [開発コンピュータの Systemwalker Runbook Automation Studio のバージョンが V15.2.0 で開発した自動運用プロセスが、管理サーバの Systemwalker Runbook Automation V15.1.0 で正常に動作するか教えてください。](#)

チューニング

- [RHEL、Solaris に導入した場合に、カーネルパラメータの変更点及び注意点などがあれば教えてください。](#)

1.1 管理サーバ

1.1.1 Systemwalker Runbook Automationをインストール/セットアップした際に、自動で作成されるユーザーはありますか。

【事例の環境】

管理サーバ：Windows

Systemwalker Runbook Automation V15.0.0以降

【回答】

Systemwalker Runbook Automation 管理サーバについて、インストール/セットアップした際に、自動で作成されるユーザーは以下の通りです。

- ✓ swrbadbuser
- ✓ swrbajobuser

各ユーザーについては、以下のマニュアルを参照してください。

- ✓ V15.0.0～V15.2.0

Systemwalker Runbook Automation 導入ガイド
インストール
管理サーバへのインストール
インストール後の注意事項

- ✓ V15.2.2

Systemwalker Runbook Automation 導入ガイド
セットアップ
管理サーバのセットアップ
セットアップ前の注意事項

Systemwalker Runbook Automation 業務サーバについて、インストール時に自動で作成されるユーザーおよび作成が必要なユーザーはありません。

1.2 業務サーバ

1.2.1 Systemwalker Runbook Automation V15.1.3 の業務サーバをインストールするにあたって、Systemwalker Software Configuration Manager V15はインストールの必須要件ですか。

【事例の環境】

業務サーバ：Windows

Systemwalker Runbook Automation V15.1.3

【回答】

いいえ。

Systemwalker Runbook Automation V15.1.3 の業務サーバをインストールするにあたって、Systemwalker Software Configuration Manager V15はインストールの必須要件ではありません。

詳細は以下のマニュアルを参照してください。

Systemwalker Runbook Automation 解説書

動作環境

ソフトウェア環境

共存できないソフトウェア

業務サーバ

1.2.2 Systemwalker Runbook Automationの業務サーバをOSから再インストールします。管理サーバで実施すべき構成情報への業務サーバ情報の再登録手順を教えてください。

【事例の環境】

業務サーバ：Windows

Systemwalker Runbook Automation V15.1.0

[回答]

OSの初期化インストール実施後の手順は以下です。

※OSの上書きインストールの場合は、業務サーバにてSystemwalker Runbook Automationのアンセットアップおよびアンインストール後に、以下の手順を実施してください。

- 1) 業務サーバにて、再インストールおよび再セットアップを実施してください。
- 2) 管理サーバにて、対象の業務サーバの構成アイテムをいったん削除してください。
具体的な操作は以下のマニュアルを参照してください。

Systemwalker Runbook Automation 運用ガイド

構成情報を管理する

CI登録・更新・削除

構成アイテムを削除する

-
- 3) 管理サーバにて、`cmbrefresh`を用いてDB情報を更新してください。
この時、“-q”オプションを用いて差分のみを更新するようにしてください。
コマンドの使用方法は以下のマニュアルを参照してください。

Systemwalker Runbook Automation リファレンスガイド

コマンドリファレンス

運用コマンド

`cmbrefresh`(実態レコードの収集要求コマンド)

-
- 4) 管理サーバにて、対象の業務サーバの構成アイテムが登録されていることを確認してください。
なお、再インストールしたサーバの構成情報が再インストール前と同じ場合、前回収集情報と差分が無い場合、CMDBに格納されない可能性があります。
本手順で登録が確認できない場合は、`cmbrefresh`コマンドに、“-a -q”オプションを付与して、再実行してください。

1.3 バージョン組合せ

- ### 1.3.1 Systemwalker Runbook Automation V15.1.3の管理サーバとV15.1.0の業務サーバ、Systemwalker Runbook Automation V15.1.0の管理サーバとV15.1.3の業務サーバの組み合わせは、サポートされますか。

[事例の環境]

管理サーバ：Windows

Systemwalker Runbook Automation V15.0.0以降

[回答]

管理サーバが新しいバージョン・レベル、エージェント(業務サーバ)が古いバージョン・レベルの場合は、バージョン・レベル違いでも実行可能です。

管理サーバが古いバージョン・レベル、エージェント(業務サーバ)が新しいバージョン・レベルの場合は、動作保障していません。

質問のバージョン・レベルでは以下となります。

- ✓ 管理サーバが上位バージョン・レベルで、業務サーバが下位バージョン・レベルの場合は、サポートしています。

管理サーバ：V15.1.3、業務サーバ：V15.1.0

- ✓ 管理サーバが下位バージョン・レベルで、業務サーバが上位バージョン・レベルの場合は、動作保証外です。

管理サーバ：V15.1.0、業務サーバ：V15.1.3

なお、バージョン・レベル違いの組合せの場合、利用できる機能は、両バージョン・レベル共通の機能の範囲となります。バージョン・レベルによっての機能差については、以下のマニュアルを参照してください。

Systemwalker Runbook Automation リリース情報

- 追加機能の概要
 - 互換に関する情報
-

1.3.2 開発コンピュータのSystemwalker Runbook Automation StudioのバージョンがV15.2.0で開発した自動運用プロセスが、管理サーバのSystemwalker Runbook Automation V15.1.0で正常に動作するか教えてください。

[事例の環境]

管理サーバ：Windows

開発コンピュータ：Windows

Systemwalker Runbook Automation V15.0.0以降

[回答]

サポートしている組み合わせは以下になります。

- ▶ 開発コンピュータのバージョン・レベルが低い場合
- ▶ 開発コンピュータと管理サーバのバージョン・レベルが同じ場合

質問にある組み合わせは、サポート対象とはなりません。

1.4 チューニング

1.4.1 RHEL、Solarisに導入した場合に、カーネルパラメータの変更点及び注意点などがあれば教えてください。

[事例の環境]

業務サーバ：Linux、Solaris

Systemwalker Runbook Automation V15.0.0以降

[回答]

製品インストール前に、システムパラメーターのチューニングを行う必要があります。

チューニングが必要なシステムパラメーターとその値については、以下のマニュアルに記載されています。システム管理者(スーパーユーザー)の権限で実施してください。

Systemwalker Runbook Automation 導入ガイド

インストール

インストール前の作業

システムパラメーターのチューニング **【Linux】【Solaris】**

第2章 セットアップ

管理サーバ

- [Systemwalker Runbook Automation の管理サーバにて ActiveDirectory サーバとの ActiveDirectory 認証、LDAP 認証が正しく行えているかどうかの確認方法を教えてください。](#)

業務サーバ

- [SNMP を利用して構成情報を収集する場合、業務サーバでの SNMP エージェントのアクセス許可設定として、管理サーバ以外の IP アドレスは設定不要でしょうか。localhost/127.0.0.1 は不要でしょうか。](#)

2.1 管理サーバ

2.1.1 Systemwalker Runbook Automation の管理サーバにて ActiveDirectoryサーバとのActiveDirectory認証、LDAP認証が正しく行えているかどうかの確認方法を教えてください。

[事例の環境]

管理サーバ：Windows

Systemwalker Runbook Automation V15.0.0以降

[回答]

ActiveDirectoryサーバに接続できる状態で、以下の両方が正常に完了することにより、正しく認証されていることが確認できます。

- Systemwalker Runbook Automationを起動する。(swrba_startコマンド)
- 本製品を利用するユーザーでWebコンソールにログインする。

2.2 業務サーバ

2.2.1 SNMPを利用して構成情報を収集する場合、業務サーバでのSNMPエージェントのアクセス許可設定として、管理サーバ以外のIPアドレスは設定不要でしょうか。localhost/127.0.0.1は不要でしょうか。

[事例の環境]

業務サーバ：Windows

Systemwalker Runbook Automation V15.0.0以降

[回答]

Systemwalker Runbook Automationでは、管理サーバまたは連携サーバ/中継サーバを許可すれば、localhost(127.0.0.1)の定義は不要です。

業務サーバに対してSNMPでアクセスを行うのは、管理サーバまたは連携サーバ/中継サーバであるため、それらを許可する必要があります。

第3章 ITリソース収集

設定変更

- [ITリソース情報収集定義ファイルの記載でサブネットマスクを“255.255.255.255”とした場合、最小範囲となる「mdbad.inventory.network.subnetmask」の設定を教えてください。](#)
- [ITリソース情報収集定義ファイルと構成情報収集スケジュール定義ファイルの設定を変更した場合、管理サーバを再起動せずに変更を有効にする方法がありますか。](#)

動作確認

- [スケジュールで定期的に行われている、ITリソース情報収集処理の動作状況を確認する方法について教えてください。](#)
- [Webコンソール上で確認出来る構成情報一覧について、SNMP設定のみで収集されているのではなく、Systemwalker Runbook Automation エージェントにより構成情報がされていることは、どの項目をみれば確認できますか。](#)
- [Systemwalker Runbook Automation 管理サーバ更改にあたって、更改後にノード検出\(ICMP/SNMP\)と構成情報の収集\(構成情報プログラムでの収集\)が正しく行えていることの確認方法を教えてください。](#)
- [ITリソース情報収集プログラム\(FJSVcmdbi\)を導入したサーバの移行後に、ITリソース情報収集プログラムの正常性を確認するためのコマンド、手順等があれば教えてください。](#)

その他

- [ITリソース情報収集が実施されている最中にITリソース情報収集定義ファイル「mdr.invpropaties」や構成情報収集スケジュール定義ファイル「schedule.conf」の設定変更などのため、サービスの停止を実施してしまった場合の影響を教えてください。](#)
- [ITリソース情報でノードを検出する場合に、管理サーバから業務サーバに必要な通信の要件を教えてください。](#)
- [業務サーバで利用するITリソース情報収集プログラムは、管理サーバと異なるバージョン・レベルのFJSVcmdbi.exeを利用することは可能ですか。](#)

3.1 設定変更

3.1.1 ITリソース情報収集定義ファイルの記載でサブネットマスクを“255.255.255.255”とした場合、最小範囲となる「mdbad.inventory.network.subnetmask」の設定を教えてください。

[事例の環境]

管理サーバ：Windows

Systemwalker Runbook Automation V15.1.3

[回答]

サブネットマスクを“255.255.255.255”とした場合、ネットワークアドレス=IPアドレスとして有効な設定とはなりません。

この場合、最小範囲となるsubnet maskの設定は、“255.255.255.252”です。

なお、サブネットアドレスを大量に指定した場合、メモリ (Javaヒープ) 不足が発生する可能性があるので注意してください。

3.1.2 ITリソース情報収集定義ファイルと構成情報収集スケジュール定義ファイルの設定を変更した場合、管理サーバを再起動せずに変更を有効にする方法がありますか。

[事例の環境]

管理サーバ：Windows

Systemwalker Runbook Automation V15.0.0以降

[回答]

“Systemwalker Runbook Automation 導入ガイド”に記載のある手順以外に、ITリソース情報収集定義ファイル、構成情報収集スケジュール定義ファイルを反映させる手段はありません。

管理サーバの停止、並びにcldbrefreshコマンドを実行してください。

なお、管理サーバを停止させずにcldbrefreshコマンドを実行してもエラーとはなりませんが、修正前の内容 (ITリソース情報収集定義ファイル) にて実態レコードは更新され、修正後の内容は反映されま

せん。

<参考>

Systemwalker Runbook Automation 導入ガイド
セットアップ
管理サーバのセットアップ
構成情報を自動収集するための設定
設定手順(ITリソース情報を収集する場合)

3.2 動作確認

3.2.1 スケジュールで定期的に行われている、ITリソース情報収集処理の動作状況を確認する方法について教えてください。

[事例の環境]

管理サーバ：Windows
Systemwalker Runbook Automation V15.1.3

[回答]

構成情報収集スケジュール定義ファイル(schedule.conf)で設定したスケジュール起動された構成情報の収集処理の開始・完了は、管理サーバのイベントログ(アプリケーション)に出力される以下のメッセージで確認してください。

- 1) 収集処理の開始イベント
 - ソース名 : FCMDB
 - イベントID : 10004
 - 種別 : 情報
 - 内容 : 更新チェック処理を開始します。'エージェント種別'

- 2) 収集処理の完了イベント
 - ソース名 : FCMDB
 - イベントID : 10005
 - 種別 : 情報
 - 内容 : 更新チェック処理を完了しました。'エージェント種別'

※' エージェント種別' 部分は、収集対象のエージェント種別により変わります。

ITリソース情報を自動収集するエージェント (AGT_INV) の場合は、'MDR Service for Inventory' が入ります。

"1) 収集処理の開始イベント"の後に"2) 収集処理の完了イベント"が出力されていない、またはソース名 : FCMDB の別のエラーイベントが出力されている場合は、収集処理が完了していません。

<参考>

Systemwalker Runbook Automation 導入ガイド

セットアップ

管理サーバのセットアップ

構成情報を自動収集するための設定

設定手順(ITリソース情報を収集する場合)

<ポイント>

- 収集処理の完了は、イベントログに出力される以下のメッセージで確認してください。
 - ✓ FCMDB: INFO: [10004] 更新チェック処理を開始します。'エージェント種別'
 - ✓ FCMDB: INFO: [10005] 更新チェック処理を完了しました。'エージェント種別'
- ITリソース情報の収集が失敗した場合は、errorinfo.csvファイルに詳細なエラーの結果が出力されます。格納先は
(マネージャのインストール先)¥CMDB¥FJSVcmdba¥var¥mdr_inv¥errorinfo.csv です。
- errorinfo.csvの見方については、以下のマニュアルを参照してください。

Systemwalker Runbook Automation メッセージ集

メッセージラベルのあるメッセージ

FCMDBで始まるメッセージ

FCMDB: WARNING: [30003] ITリソース情報を収集できなかったノードがあります。

FCMDB: WARNING: [30003] There is at least one node from which IT resource data was not collected successfully.

◇ errorinfo.csvの見方についての補足

[OPERATION]や[COLLECTION]などの各識別子は、ITリソース収集の動作を表しており、以下の通りです。

INITIALIZATION	: 初期化
PREPARATION	: 準備
CREATION	: 作成
TERMINATION	: 終了
NODE	: ノード検出

COLLECTION	: 収集
DEPLOY	: 配布 (ITリソース情報収集プログラムの配布)
OPERATION	: 操作 (ITリソース情報収集プログラムの操作)

◇ コード : 300、400、500の場合の対処について

マニュアルには、対処として“それ以前に出力されている情報に対処”となっていますが、300、400、500以前に情報の出力がない場合は、以下の対処を行ってください。

- ✓ まずは、収集処理完了後にCMDBに収集情報が格納されているかを確認してください。Webコンソール画面の[構成管理]-[CI参照]よりerrorinfo.csvファイルに記載されているIPアドレスが“論理ノード”として登録されているかを確認してください。

<参考>

Systemwalker Runbook Automation 運用ガイド

構成情報を管理する

CI参照

- 構成アイテムをツリー表示する
 - 構成アイテムを検索する
-

- ✓ 物理サーバがPRIMAGYではない場合や仮想マシンの場合、物理サーバの情報が収集できずに以下のメッセージが出力されますが、論理ノード情報としては収集し、CMDBに格納されている場合があります。

=====

```
OPERATION [IPAddress:***.***.***.*** networkaddress:***.***.***.***]      500
It failed.
```

=====

そのため、errorinfo.csvファイルに記載されているIPアドレスが以下の条件に該当する場合は、環境に依存し該当のメッセージが出力されますが、収集自体は正常です。メッセージは無視してください。

- ◆ 物理サーバがPRIMAGYではない または 仮想マシンである
- ◆ “論理ノード”としては登録されている。

※ 物理のPRIMAGYの場合、機種によってはメッセージ出力されます。

- ✓ CMDBに“論理ノード”として情報が格納されていない場合は、“本情報以前に出力されている情報” (errorinfo.csvファイルの上の行で発生している情報) に、同じIPアドレスの他の記録がないかを確認し、以下のトラブルシューティングガイドの内容に一致するか確認してください。

Systemwalker Runbook Automation トラブルシューティングガイド

構成情報自動収集に関するトラブルシューティング

ITリソース情報収集に関するトラブルシューティング

ITリソース情報収集が完了しても収集対象ネットワークの論理ノードが構成情報に登録されない

3.2.2 Webコンソール上で確認出来る構成情報一覧について、SNMP設定のみで収集されているのではなく、Systemwalker Runbook Automation エージェントにより構成情報が収集されていることは、どの項目をみれば確認できますか。

[事例の環境]

管理サーバ：Windows

Systemwalker Runbook Automation V15.0.0以降

[回答]

“インストール済みソフトウェア”の情報が収集できていることで、Systemwalker Runbook Automation エージェントによる収集ができていることを確認できます。

3.2.3 Systemwalker Runbook Automation 管理サーバ更改にあたって、更改後にノード検出(ICMP/SNMP)と構成情報の収集(構成情報プログラムでの収集)が正しく行えていることの確認方法を教えてください。

[事例の環境]

管理サーバ：Windows

Systemwalker Runbook Automation V15.1.3

[回答]

サーバ更改でデータも移行している場合は、Webコンソールから更新の有無を確認できません。そのため、以下の方法で確認してください。

- 1) 更改後のサーバで構成情報を最新化します。
その際、`cmdbrefresh`コマンドの-aオプションを使用します。
- 2) 収集処理が完了後、`ciexport`コマンドを使用して、構成情報をexportします。
- 3) 各構成情報のlastUpdateから最終更新日時を確認し、更新されていれば疎通および収集ができ

ています。

1回目のcmdbrefreshでは、ノード検出がされます。1回目で更新されていた場合は、ノード検出ができています。

2回目以降、ノード検出ができている状態でcmdbrefreshを実施した場合は、構成情報が収集されるので、更新状態を確認します。

構成情報収集対象サーバやネットワーク設定に変更がなく、対象サーバが起動している状態であれば、通常は更新されます。

上記で、更新が無い場合は、管理サーバからのICMPやSNMPが可能かどうかやファイアウォール等を確認してください。

3.2.4 ITリソース情報収集プログラム(FJSVcmdbi)を導入したサーバの移行後に、ITリソース情報収集プログラムの正常性を確認するためのコマンド、手順等があれば教えてください。

[事例の環境]

管理サーバ：Windows

Systemwalker Runbook Automation V15.0.0以降

[回答]

ITリソース情報収集プログラム(FJSVcmdbi)の起動確認は可能ですが、正常に動作している、つまり収集できているかどうかは、構成情報を収集してSystemwalker Runbook Automation 管理サーバで収集結果を確認する以外に方法はありません。

ITリソース情報収集プログラム(FJSVcmdbi)の起動確認方法は以下の通りです。

- Windowsの場合

タスクマネージャー等で以下のプロセスが存在することを確認します。

- ✓ 32bitOSの場合

fcmdb_inv_lnkrcv.exe

- ✓ 64bitOSの場合

fcmdb_inv_lnkrcv64.exe

- Linuxの場合

psコマンド等で以下のプロセスが存在することを確認します。

- ✓ 32bitOSの場合

fcmdb_inv_lnkrcv

- ✓ 64bitOSの場合

fcmdb_inv_lnkrcv64

3.3 その他

3.3.1 ITリソース情報収集が実施されている最中にITリソース情報収集定義ファイル「`mdr.invpropties`」や構成情報収集スケジュール定義ファイル「`schedule.conf`」の設定変更などのため、サービスの停止を実施してしまった場合の影響を教えてください。

[事例の環境]

管理サーバ：Windows
Systemwalker Runbook Automation V15.0.0以降

[回答]

収集途中で終わります（データ破壊はありません）。
そのため、必要であれば再度収集をしてください。

3.3.2 ITリソース情報でノードを検出する場合に、管理サーバから業務サーバに必要な通信の要件を教えてください。

[事例の環境]

管理サーバ：Windows
Systemwalker Runbook Automation V15.0.0以降

[回答]

構成管理マネージャから各管理対象ノードに対する通信要件は、以下になります。

- 1) マニュアルに記載されているポート（SNMP・IPMI・SSH・ファイル転送基盤等）に対してアクセスできる。かつ、
- 2) 管理対象ノードに対してICMPが通信可能（※1）。かつ、
- 3) 管理対象ノードに対してSNMPのブロードキャストができる（※2）。

※1：ノード検出のため、ICMP(ping)の通信許可が必要です。

※2: SNMPブロードキャストは検出対象が多い場合に対象を絞る目的で行います。対象が多い場合に実施することをお勧めしますが、必須要件ではありません。

<参考>

Systemwalker Runbook Automation 導入ガイド

ポート番号一覧

ポート番号一覧

3.3.3 業務サーバで利用するITリソース情報収集プログラムは、管理サーバと異なるバージョン・レベルのFJSVcmdbi.exeを利用することは可能ですか。

[事例の環境]

管理サーバ: Windows

Systemwalker Runbook Automation V15.0.0以降

[回答]

業務サーバにインストールしているSystemwalker Runbook Automation エージェントと同じバージョン・レベルのITリソース情報収集プログラムを使用してください。

第4章 ホスト名/IPアドレス変更、LDAP変更

管理サーバ

- [管理サーバの IP アドレスを変更する際、業務サーバ側で実施すべき作業\(OS 再起動等\)はありますか。](#)
- [現在の LDAP サーバから、別の LDAP サーバへ変更する方法を教えてください。](#)
- [管理サーバが参照している ActiveDirectory サーバのホスト名と IP アドレスを変更します。対処方法を教えてください。](#)
- [サーバ更改のため Systemwalker Runbook Automation V15.1.0 管理サーバを、別サーバの Systemwalker Runbook Automation V15.1.3 へ移行します。条件ごと（ホスト名/IP アドレス、LDAP 認証用の ActiveDirectory サーバの変更有無）による、移行方法を教えてください。](#)

業務サーバ

- [Systemwalker Runbook Automation の業務サーバを導入している Windows サーバにおいて、Administrator アカウントの名称変更または、無効化を実施した場合、業務サーバへの動作影響はありますか。](#)

4.1 管理サーバ

4.1.1 管理サーバのIPアドレスを変更する際、業務サーバ側で実施すべき作業(OS再起動等)はありますか。

[事例の環境]

管理サーバ：Windows

Systemwalker Runbook Automation V15.1.3

[回答]

インベントリ収集のために、SNMPエージェントの設定をしている場合は、管理サーバからのSNMPパケ

ットを受け付ける設定にしてください。(接続許可アドレスを変更してください)

4.1.2 現在のLDAPサーバから、別のLDAPサーバへ変更する方法を教えてください。

[事例の環境]

管理サーバ：Windows

Systemwalker Runbook Automation V15.1.0

[回答]

LDAPサーバを別のLDAPサーバに変更する場合は、管理サーバで一度アンセットアップを実施し、再度セットアップする必要があります。

なお、アンセットアップ前に採取したバックアップを、別のLDAPサーバで再セットアップした環境にリストアすると、バックアップ時のLDAPサーバの情報に戻るので注意してください。

- 作業手順
 - 1) Systemwalker Runbook Automationのバックアップを採取してください。
※ 再セットアップ時に問題が発生した場合、元の環境にリカバリをするためです。
 - 2) プロセス定義、スケジュール定義をエクスポートしてください。
 - 3) ITリソース収集の定義情報をメモしてください。
 - 4) Systemwalker Runbook Automationを停止してください。
 - 5) cmdbackupコマンドにより、構成情報のバックアップを採取してください。
 - 6) Systemwalker Runbook Automationをアンセットアップしてください。
 - 7) 別のLDAPサーバを使用して、Systemwalker Runbook Automationを再セットアップしてください。
 - 8) 3)でメモした情報を再定義してください。
 - 9) 2)でエクスポートしたプロセス定義とスケジュール定義を再登録してください。
 - 10) Systemwalker Runbook Automationを停止してください。
 - 11) cmdbrestoreコマンドにより、5)でバックアップした構成情報をリストアしてください。
 - 12) Systemwalker Runbook Automationを起動してください。
 - 13) 正常に動作するか確認してください。問題ない場合、1)のデータは破棄してください。

上記手順は、以下のマニュアルを参照してください。

Systemwalker Runbook Automation 導入ガイド
セットアップ
管理サーバのセットアップ

構成情報を自動収集するための設定
ITリソース情報収集定義ファイルの修正方法
アンセットアップ
保守
バックアップ・リストア

Systemwalker Runbook Automation 運用ガイド

自動運用を管理する

プロセス定義を管理する

- プロセス定義をインポートする
- プロセス定義をエクスポートする

スケジュール定義を管理する

- スケジュール定義をエクスポートする
 - スケジュール定義をインポートする
-

Systemwalker Runbook Automation リファレンスガイド

コマンドリファレンス

メンテナンスコマンド

- cmdbackup (CMDBバックアップコマンド)
 - cmdrestore (CMDBリストアコマンド)
-

4.1.3 管理サーバが参照しているActive Directoryサーバのホスト名とIPアドレスを変更します。対処方法を教えてください。

[事例の環境]

管理サーバ : Windows

Systemwalker Runbook Automation V15.1.0

[回答]

「[現在のLDAPサーバから、別のLDAPサーバへ変更する方法を教えてください。](#)」と同じ手順での対処となります。

4.1.4 サーバ更改のためSystemwalker Runbook Automation V15.1.0 管理サーバを、別サーバのSystemwalker Runbook Automation V15.1.3へ移行します。条件ごと（ホスト名/IPアドレス、LDAP認証用のActiveDirectoryサーバの変更有無）による、移行方法を教えてください。

[事例の環境]

管理サーバ：Windows

Systemwalker Runbook Automation V15.1.0

[回答]

<概要>

■ 条件1

- 運用中のSystemwalker Runbook Automation 管理サーバで、LDAP認証用のActiveDirectoryサーバのIPアドレス/ホスト名のみ変える
- それ以外は変更なし（導入するSystemwalker Runbook Automation 管理サーバは同じバージョン・レベル）

=> 必要な作業は、以下になります。

- ✓ プロセス定義、スケジュール定義の移行（手動エクスポート/インポート）
- ✓ ITリソース収集定義（エージェント連携定義ファイル、自動収集定義、およびスケジュール）の移行（手動退避/再設定）
- ✓ 構成情報（CI）の移行（メンテナンスコマンドcmdbackup/cmdrestore）
- ✓ Systemwalker Runbook Automation 管理サーバを再構築&各種インポート

■ 条件2

- 運用中のSystemwalker Runbook Automation 管理サーバを新しい筐体に移行する
- 移行元サーバと移行先サーバで、使用するLDAP認証用のActiveDirectoryサーバのIPアドレス/ホスト名は変わらない
- 移行元サーバと移行先サーバは違うサーバ（違う筐体）、かつ導入するSystemwalker Runbook Automation 管理サーバは異なるバージョン・レベル
- 移行元サーバと移行先サーバのIPアドレス/ホスト名が同じ

（移行元）

OS名 : Windows Server 2008

製品名 : Systemwalker Runbook Automation V15.1.0 管理サーバ

↓

（移行先）

OS名 : Windows Server 2012

製品名 : Systemwalker Runbook Automation V15.1.3 管理サーバ

IPアドレス/ホスト名 : 移行元と同じ

=> 必要な作業は、以下になります。

-
- ✓ 移行先のSystemwalker Runbook Automation 管理サーバを構築
 - ✓ 移行元のSystemwalker Runbook Automation 管理サーバを移行先管理サーバと同じバージョン・レベルにアップグレード
 - ✓ Systemwalker Runbook Automationのバックアップ／リストアによりデータ移行

■ 条件 3

- 運用中のSystemwalker Runbook Automation 管理サーバを新しい筐体に移行する
- 移行元サーバと移行先サーバで、使用するLDAP認証用のActiveDirectoryサーバのIPアドレス／ホスト名が変わる
- 移行元サーバと移行先サーバは違うサーバ(違う筐体)、かつ導入するSystemwalker Runbook Automation 管理サーバは異なるバージョン・レベル
- 移行元サーバと移行先サーバのIPアドレス／ホスト名が同じ

(移行元)

OS名 : Windows Server 2008

製品名 : Systemwalker Runbook Automation V15.1.0 管理サーバ

↓

(移行先)

OS名 : Windows Server 2012

製品名 : Systemwalker Runbook Automation V15.1.3 管理サーバ

IPアドレス／ホスト名 : 移行元と同じ

⇒ 必要な作業は、以下になります。

- ✓ 移行先のSystemwalker Runbook Automation 管理サーバを構築
- ✓ 移行元のSystemwalker Runbook Automation 管理サーバを移行先管理サーバと同じバージョン・レベルにアップグレード
- ✓ プロセス定義、スケジュール定義の移行 (手動エクスポート／インポート)
- ✓ ITリソース収集定義 (エージェント連携定義ファイル、自動収集定義、およびスケジュール) の移行 (手動退避／再設定)
- ✓ 構成情報 (CI) 一式の移行 (メンテナンスコマンドcmdbackup／cmdrestore)

<手順>

各条件の作業手順は以下です。

■ 条件 1

「[現在のLDAPサーバから、別のLDAPサーバへ変更する方法を教えてください。](#)」と同じ手順での対処となります。

構成情報については、GID等含めて移行前と同じになります。プロセス定義のIDやスケジュール定義のIDについては、IDの割り振り直しとなります。

■ 条件 2

以下の手順で実施してください。

なお、構成情報についてもGID等含め、移行前と同じになります。

-
- 1) **【移行元サーバ】**
Systemwalker Runbook Automationのバックアップを採取してください。
※ 次のアップグレード時に問題が発生した場合、元の環境にリカバリをするためです。
 - 2) **【移行元サーバ】**
Systemwalker Runbook Automationを、V15.1.0 ⇒ V15.1.3にアップグレードしてください。
Systemwalker Runbook Automation V15.1.3の以下のマニュアルを参照してください。

Systemwalker Runbook Automation 導入ガイド
以前のバージョン・レベルからのアップグレードについて

- 3) **【移行元サーバ】**
正常に動作するか確認してください。
- 4) **【移行元サーバ】**
Systemwalker Runbook Automationのバックアップを採取してください。
- 5) **【移行先サーバ】**
Systemwalker Runbook Automationをインストールしてください。
- 6) **【移行先サーバ】**
Systemwalker Runbook Automationのセットアップは行わず、4)のバックアップデータをリストアしてください。
- 7) **【移行先サーバ】**
正常に動作するか確認してください。
※ 問題がない場合、1)および4)で採取したデータは破棄してください。

■ 条件3

以下の手順で実施してください。

- 1) **【移行元サーバ】**
プロセス定義、スケジュール定義をエクスポートしてください。
<参考>

Systemwalker Runbook Automation 運用ガイド
自動運用を管理する
プロセス定義を管理する
プロセス定義をエクスポートする
スケジュール定義を管理する
スケジュール定義をエクスポートする

- 2) **【移行元サーバ】**
ITリソース収集の定義情報をメモしてください。
- 3) **【移行元サーバ】**
Systemwalker Runbook Automationのバックアップを採取してください。

※ 次のアップグレード時に問題が発生した場合、元の環境にリカバリをするためです。

4) **【移行元サーバ】**

Systemwalker Runbook Automationを、V15.1.0 ⇒ V15.1.3にアップグレードしてください。

Systemwalker Runbook Automation V15.1.3の以下のマニュアルを参照してください。

Systemwalker Runbook Automation 導入ガイド
以前のバージョン・レベルからのアップグレードについて

5) **【移行元サーバ】**

正常に動作するか確認してください。

6) **【移行元サーバ】**

Systemwalker Runbook Automationを停止してください。

7) **【移行元サーバ】**

cmdbbackupコマンドにより、構成情報のバックアップを採取してください。

<参考>

Systemwalker Runbook Automation リファレンスガイド
コマンドリファレンス
メンテナンスコマンド
cmdbbackup (CMDBバックアップコマンド)

8) **【移行先サーバ】**

ホスト名変更後のLDAPサーバを使用して、Systemwalker Runbook Automationをセットアップしてください。

9) **【移行先サーバ】**

2)でメモした情報を定義してください。

10) **【移行先サーバ】**

1)でエクスポートしたプロセス定義とスケジュール定義を登録してください。

<参考>

Systemwalker Runbook Automation 運用ガイド
自動運用を管理する
プロセス定義を管理する
プロセス定義をインポートする
スケジュール定義を管理する
スケジュール定義をインポートする

11) **【移行先サーバ】**

Systemwalker Runbook Automationを停止してください。

12) **【移行先サーバ】**

cmdbrestoreコマンドにより、7)でバックアップした構成情報をリストアしてください。

<参考>

Systemwalker Runbook Automation リファレンスガイド
コマンドリファレンス
メンテナンスコマンド
cmdbrestore (CMDB リストアコマンド)

- 13) 【移行先サーバ】
Systemwalker Runbook Automationを起動してください。
- 14) 【移行先サーバ】
正常に動作するか確認してください。
※ 問題がない場合、3)で採取したデータは破棄してください。

4.2 業務サーバ

4.2.1 Systemwalker Runbook Automationの業務サーバを導入しているWindowsサーバにおいて、Administratorアカウントの名称変更または無効化を実施した場合、業務サーバへの動作影響はありますか。

[事例の環境]

管理サーバ：Windows
Systemwalker Runbook Automation V15.1.3

[回答]

Systemwalker Runbook Automationの業務サーバにおいては、Administratorアカウントの名称変更または無効化による直接的な動作への影響はありません。

ただし、お客様環境によっては、以下の場合に管理サーバ側の登録・定義情報の修正が必要になる場合があります。

- 1) 管理サーバのCMDBに、エージェント側OSのAdministratorのユーザーアカウントの情報を登録して利用している場合
利用しているかどうかはプロセス定義次第となりますが、CMDBにユーザー情報を登録しているかどうかは、管理サーバでswrba_uexportコマンドを実行し、ファイル出力することで登録情報を確認可能です。

登録されている場合は、出力ファイルを編集し、swrba_uainportコマンドで移入して変更してください。

コマンドの詳細は以下のマニュアルを参照してください。

Systemwalker Runbook Automation リファレンスガイド

コマンドリファレンス

運用コマンド

- swrba_uainport (ユーザー情報のインポートコマンド)
 - swrba_uexport (ユーザー情報のエクスポートコマンド)
-

- 2) 管理サーバに登録済みのプロセス定義の運用操作部品において、エージェント側のAdministratorユーザー情報を直接定義して利用している場合

上記を変更しない場合、利用しているプロセス定義が異常終了することになります。

第5章 ライセンス

ライセンス

- Systemwalker Runbook Automationのエージェントをインストールしていないサーバに対して、マネージャからコマンド発行を行うことを想定しているが、ライセンスのカウントはどうなりますか。
- 製品に登録し、一定期間経過後に更新が必要となる「ライセンス」に相当するものがあるでしょうか。

5.1 ライセンス

5.1.1 Systemwalker Runbook Automationのエージェントをインストールしていないサーバに対して、マネージャからコマンド発行を行うことを想定しているが、ライセンスのカウントはどうなりますか。

[事例の環境]

管理サーバ：Windows

Systemwalker Runbook Automation V15.0.0以降

[回答]

Systemwalker Runbook Automationでは、管理対象サーバには、“プロセッサライセンス（管理対象サーバ用）”が必要となります。

エージェントをインストールされていないサーバでも、管理対象サーバ（※）となるため、プロセッサライセンス（管理対象サーバ用）が管理対象サーバのプロセッサ（CPU）数分必要です。

※ 管理対象サーバは、自動運用プロセスの実行により、管理サーバから実際の操作が行われるサーバです。Systemwalker Runbook Automationのエージェント機能を導入することもできます。

ストレージに対するコマンド発行の場合は、ノードライセンスが必要となります。

5.1.2 製品に登録し、一定期間経過後に更新が必要となる「ライセンス」に相当するものがあるでしょうか。

[事例の環境]

管理サーバ：Linux

Systemwalker Runbook Automation V15.0.0以降

[回答]

製品に登録し、一定期間経過後に更新が必要となるライセンスに相当するものではありません。
(製品に登録するようなライセンス (ライセンスキー) 自体がないため。)